

アスファルト舗装工事施工体制研究会 提言概要

経済・社会環境が急激に変化するなか、アスファルト舗装工事における発注者サイドと施工者サイドが望ましい施工体制の将来像を共有し、あるべき姿を実現するための方策を提言

- (1) 技術者、施工機械数と比べても多く、さらに増加している舗装業者数
- (2) 舗装事業量はやや減少傾向にあり、設備の稼働率が低下
- (3) 繁忙・端境期の事業量の差が大
- (4) 品質確保のため現場の経験にもとづく特有の技術が必要

舗装工事の課題

発注者側の問題

施工能力の低い業者に発注されるケースがあり、一括下請負になりやすい
施工能力を施工実績のみで評価するのではなく、発注者自身が業者の施工能力を見極める必要

施工者側の問題

舗装業者数の過剰が過大な価格競争を招き、充実した施工部門を有する企業の競争力が相対的に低下
直接施工から子会社化、外注化が進み、元請、下請の連携が不十分な場合には施工効率や品質の低下の懸念

望ましい施工体制

工事現場の施工体制

技術者、技能者、作業員、施工機械、資材の適切な配置・調達、特に優秀な技術者と能力の高い技能者の確保と両者のチームワークが大切
直営施工であれば問題が少ないが、施工を外注する場合には元請会社が完全に責任を負える管理体制を敷くこと

舗装会社の体制整備

良好な施工体制をとれる業者が競争において生き残れる仕組みが必要
直営施工部門を有する会社はできるだけその体制の保持に努めるとともに、協力会社等を活用する場合には恒常的な協力関係にある会社が望ましい
舗装会社としての技術力の保持、向上の観点から一部の工事で直営施工することが望ましい

望ましい施工体制の実現に向けた方策

発注者側の方策

- (1) 施工者の体制の普段からの把握
- (2) 技術力を評価できる発注方式の導入
- (3) 業者選定の段階での施工能力の評価
- (4) 現場の点検の実施
- (5) 年間を通じた工事の平準化

施工者側の方策

- (1) 発注者への施工体制の情報提供
- (2) 施工体制の整備
- (3) 工事現場の施工体制の適正化
- (4) 技術の維持・向上
- (5) 地域貢献